



寺門仁美&彩月貴央 対談 時を超えてつながったふたつの夏

2023年4月4日 都内某所にて。収録スタッフは一本プロデューサーと近藤監督等。ちなみに一本Pは好夏ではオフショットムービーも担当していた（そしてそれが物議を醸す?）

貴央：出会いは好夏の近藤監督の結婚式（正確には1.5次会）で初めてお会いして。意外にもお互いジュニアアイドルだった時は接点がなくて…

仁美：そうね。

貴央：同じ本に出てたりはしたけれど、会うことはなかったですね。

仁美：確かに時期も被ってるし、出てる雑誌もすごい被ってたんだけど会ったことはないよね。

貴央：意外とジュニアアイドルって一緒に撮影したりとかっていう機会ってなかったですね。

仁美：好夏がめずらしい感じだったかも。あんなに同世代の子たちが集まってっていうのは。どうだった、好夏3の撮影は？

貴央：みんなで修学旅行感覚で楽しかった覚えがあります。一人部屋じゃないし。大体写真集とかDVDの撮影行くとマネージャーさんと一緒に、一人のお部屋がほとんどで。けど3人とかで同じ部屋に泊まったりとかして…

仁美：え!? 好夏2、1人だった…

貴央：そうなんだ、あれえ？

仁美：あ、ゴメン! 2、1人だった～（スタッフを横目に見つつリピート）

二人：（笑）

貴央：（伊豆のロケでは）海の目の前のコテージみたいなところを貸し切ってみんなで泊まってたんですけど。

2階建てみたいに、ロフトみたいになってて。なんか「彩月さんはキングベッド使ってください」みたいな。

仁美：え？待って、待って。主役はキングベッド？じゃあ、準主役は何ベッド？

貴央：ロフトベッド。

二人：（笑）

貴央：でも寂しいし私も喋りたいから、女の子3人でロフトベッドで寝ました。

仁美：かわいいー！

貴央：そう、で2時くらいまで喋って。でも4時集合だったんですよ、次の日メイク入りが。

仁美：はやっ（笑）

貴央：朝の天体観測をするシーンだったかな。4時メイクスタートで、5時から撮影みたいな。

仁美：いや、起きた？

貴央：もう寝ながらメイクしてもらってました。で、あまりにも私が起きないから他の子達を先にメイクしてくれて、私は後回しにしてもらって。

仁美：4時かあ、でもそれは楽しいかも～。

貴央：すごい楽しかったです。



仁美：私の時は、ビジネスホテルに撮影が終わったら1人ずつ「この部屋に入ってください」みたいな。

貴央：でもパーソナルな時間もあっていいですね。

仁美：めちゃくちゃパーソナル。で、そのなんていうのかな…。共演者に実は好きな子がいて（注：坂田知美ちゃんの事）夜とか本当は行きたかったんだよね、部屋に。で、「メイキング撮るよー」ってなった時だけその子の部屋に行ってメイキング撮って「じゃあね」みたいな感じだったんだけど、本当はその後、行きたかった個人的に（笑）

貴央：みんなお仕事の後だし、マネージャーさんもいるし。

仁美：行きにくいなーみたいな感じで。もう部屋でね、悶々としてたよ、台本も読まずに。読みなさいよって感じだけど（笑）

貴央：読んでた覚えあんまりないな私も（笑）

仁美：台本読んでなかったけどちゃんと台詞入ってましたよねえ、私たち（監督に向かって）

監督：入ってました（笑）

ここで監督から、仁美ちゃんたちがビジネスホテル泊だった理由を説明。

好夏2も好夏3もメインのロケ地は長野県上田市、本当は宿泊は同じ旅館になるはずでした。



でも先行して旅館に着いた好夏2撮影スタッフが旅館のあまりの怪しさに驚いて、出演者の宿泊を急遽ビジネスホテルに変更。その後、撮影期間中にスタッフが旅館の怪しさにすっかり慣れてしまい、むしろ面白がり出して、翌年撮影の好夏3では出演者もそこに宿泊することに。

仁美：どう怪しかったの？

貴央：なんかちょっと不気味な感じだった。

仁美：お化け系？

貴央：そうそう、でもねやっぱり女の子でワーツ！てお風呂入って、ワーツ！て部屋帰ったから…それでみんな同じ部屋だったのかな。

仁美：（好夏2では）演者とメイクさんとか女性だけビジネスホテルで、あとのスタッフさんは別のホテルだったの。で私子供だから「（スタッフは）絶対私たちよりイイとこに泊まって絶対イイ思いしてる！」と思ってたの。

貴央：（笑）

仁美：で聞いわけよ「どこ泊まってたんですか？ 私たちをココに置いて」みたいことをスタッフさんにきくと「いや、ウチらが泊まってる所なんて仁美ちゃんが来たらもうヤバイよ。雑魚寝だし、汚いし、そんな入れるとこじゃないから」って否定すれば否定するほど…

二人：アヤシイ！

仁美：絶対イイとこ泊まってるコレ！



もうずっとね、撮影が始まった午前中とか、それをずっと問い詰めて（笑）

貴央：（その旅館は）なんか入り口のところにこんな大きい石みたいなのが、めちゃめちゃ飾ってあって…

監督：鎧とかね。

仁美：え～、逆に行きたいな。

貴央：スタッフさんたちが「夜怖いかもしれないから早く寝てね」みたいな、すごい言われました。

仁美：すごい気になる。

貴央：そこに泊まってる時、関係ないとは思ってますけど、私と柳生みゆちゃん2人が具合悪くなっちゃって。熱も40度から下がらない。で3日目にマネージャーさんがさすがに病院行こうって言うてくれて。親から保険証のコピーを送ってもらって。

仁美：ジュニアアイドルあるあるだ。

貴央：あの「保険証のコピー持ってきてください」なやつ（笑）

仁美：それジュニアアイドルあるあるなんだけど～（笑）

貴央：でも持ってきてなくて、親が旅館に送ってくれて。

マネージャーさんと一緒に病院行って点滴してもらって撮影してました。

仁美：結構、過酷！

貴央：でも楽しかった思い出の方が多いです。毎日恒例行事があって、撮影終わった後に絶対コンビニに寄るんですよ。「みんな好きなもの買っといで〜！夜食とか朝食買っといで〜」みたいなかんじで。

仁美：2では、やってくれなかったなあ（と一木プロデューサーを見つつ）

貴央：でも私と柳生みゆは具合が悪いから、チョコだけ買って、すぐバスに戻ってみんなの帰りを待ってたわけです。あまりに帰ってこないから「おっそいなあ」と思って見に行ったら、みんな雑誌とか化粧品とか買っていて…

仁美：いいな！何それ！3の「好きなもの買っちゃいなよ」みたいな。その大盤振る舞ってなんなの？

貴央：そのお買い物、いつもみんな楽しみにしてました。

仁美：2はね、どこかそういうの寄ってくれたかなあ……無かったよ！（笑） ああ〜、私たちの2がやっぱり頑張ったから…

貴央：本当そうです！

仁美：3でケータリングの質が良くなったのは、やっぱり私たちが茨の道を行ったからこそ！



貴央：（好夏2が）成功したからこそ。ありがとうございます！

一同：（笑）

貴央：（好夏は）必ず海のシーンがありますよね。

仁美：あった。

貴央：（波打ち際に置かれた）机に乗ってましたよね。可愛かった。

仁美：あの机に座っていると、もう5秒に1回ぐらい「降りて、机が沈んじゃうから」とか言われて毎回戻されて、私が重いみたいな感じになってたけど。あれ砂浜でさあ、普通に波とか来てて…

二人：誰でも沈むに決まってるじゃん（笑）

仁美：それなのに「仁美ちゃん重いからだよ」みたいなかんじで…

貴央：でもあのシーン、すごい印象的でした。

仁美：うん、私も。砂浜にこう机が並んでる感じとかが、すごい記憶に残ってるな。遠くからケータリングの唐揚げ食べながら（机を並べて準備しているのを）見てた記憶。

一同：（笑）

仁美：でも本当に3、めちゃくちゃかわいいです。あの当時のかわいい子たちを…

貴央：それは一木さんの腕が。

一木P：はい？

監督：好夏の出だしはまず一木さんのキャスティングから始まるから。

貴央：脚本じゃないんだ（笑）なんなら絵コンテも撮影の後に描かれてましたからね。

（※発売当時、DVDの購入特典として絵コン

テが配布された。撮影中も絵コンテは描かれていたが、配布のために撮影の平松大輔氏が大幅加筆)

仁美：カワイイよね、あれもね。

貴央：そういう色んな企画が並行して走ってるのが、すごい魅力的な作品でしたよね。

仁美：イベントもやった?

貴央：やりました。

仁美：うちはアソビットシティ。

貴央：ソフマップだった気が。でも何回かやりましたよね?

一木P：2回。2回でって販売店さんが言うから。

仁美：全員?

貴央：メインの3人集まって。ファンの方たちもすごい喜んでくださって。それこそ（それまでの）1人でイベントって、自分との戦いだったじゃないですか。

仁美：戦ってたの?自分と戦ってたの?

貴央：サインずっと書いたりとか。ファンの方に会えて嬉しい気持ちもあるけど大変な部分もある。けれど3人だったんで楽しくできました。

仁美：そうだね。同世代の子がいるとなんか放課後みたいな感じ。楽屋が放課後みたいになって。

貴央：しかも3人、同い年の子だったんですよ。だからそれもあるって共通の会話も多くて。柳生みゆとは、今もよく連絡取ってます。

仁美：へー、好夏の愚痴は言っていない?

貴央：言っていないです（笑）でも今回、インスタグラムのストーリーに上げたら、「え、すごい!こんなに何年も経っても上映できるのって



すごいね! みたいな感じでDMくれました。

仁美：本当すごいと思う。だって20年だよ（しみじみ）

貴央：でも当時を知ってる方も結構多いですね。

仁美：だからなんか怖いもん。だってさ20年前の自分がスクリーンに出て、20年後の自分が登壇するってさ、怖くない?

貴央：みんなどんな気持ちで見るとだろうね? でも（仁美さんは）全然変わってないから。

仁美：イヤイヤイヤイヤ、20年ってすごいよ。

貴央：ねー。でも変わってないなって思いましたけどね。

仁美：変わってるよね、やっぱり! 私やっぱ、消えゆくフェイスライン……（スタッフに）ここカットで!

一同：（爆笑）

仁美：でも私さ、今ふと思い出したんだけど、
貴央ちゃんと初めて会ったのってあれかも。
（撮影から）何年か後に好夏2,3のスタッフさ
んと演者を集めてアトリーで同窓会みたいな…

貴央：えっ! いつ?

ここで一木プロデューサーがスマホで当時の記
念写真を見つけ出してくる。

二人：（写真を見て）わーっ!

貴央：監督なんか大学生みたい。そして寺門は
ピッチャー持っている（笑）

仁美：思い出したけど、あれがはじめまして。

貴央：そうですね。

仁美：私があの時、貴央ちゃんに思った一番の
第一印象は、なにこのめちゃくちゃキラキラし
てる子。現役の時に雑誌とかDVDとかの貴央ち
ゃんを目にする時よりも、会ったほうが100倍
可愛かった。

貴央：えー。ありがとうございます（笑）たぶ
ん撮影から13、14年は経って…

仁美：そうだよね。当時のメイクさんとかスタ
イリストさんとか、スタッフの方もいろいろ…

貴央：大集結で。

仁美：すごい懐かしかったな。

貴央：愛されてる作品だからこそ、みんなでそ
うやってまた会いたくなって思っ。あれだけ
人数が集まって、いいですよ。

仁美：ねー。で2回目に会ったのが監督の結婚
式で。

貴央：その後、久しぶりに会ったのは、仁美さ
んがDMをくださったんですよ。

仁美：そうそうそうそう。

貴央：「私も子供が産まれたんだって」って報
告してくださって、で「久しぶりに会おうよ」
っていう話をしてくださって、2人で会って。
お子さんも連れていらして。でそこから「何し
てる普段?」みたいな話とか色々してて…

仁美：ああ、そうだねえ。

貴央：で「せっかくだから久しぶりにファンの
方に会いたいよね」みたいな話になった時に
仁美さんが「じゃあもうイベント私、企画しち
ゃうわ!」みたいな感じで

仁美：そうだね、その場のノリで。

貴央：決まってそこからもう2ヶ月後に舞台に
立ってましたね（笑）

仁美：そうだね! でもノリで言ってさ、ノリだ
けで終わる時ってあるじゃない。私もノリだけ
で生きてるから（笑）だいたい実現しないこと
がめちゃくちゃ多いんだけど。そのノリに乗っ
てくれて、しかもフォトブックとかまで出すよ
うになって、ちゃんと来てくださるファンの方
もいて。でほらイベントの時も結構むちゃぶりを
貴央ちゃんにさせてたけど（笑）全部ちゃんと
乗ってくれるからすごいなと思って

貴央：楽しかったですねー。

仁美：どこまでこれ乗ってくれるんだろうって
思っ。どこまでも行きそうで怖いんだけど
（笑）



監督：ところで、一木プロデューサーってどういう印象でした？

貴央：いつも動画回してる人ってイメージでした（笑）

仁美：当時見てた一木さんと今違くない？ 私すごく違うんだよね。

貴央：どんな感じで違いますか？

仁美：私ね、当時結構苦手な人だったの（笑）

貴央：アラ…

仁美：好夏の前にBOMB.tv（アイドル雑誌ボム！の動画配信サイト）っていうのがあって、その動画を回したりとか企画をやってくれるのが、そのブラック社長（一木さんの事）ってその時言われてて…

貴央：懐かしい。

仁美：ま、色々子役で長いとさ「もうこれ、撮れ高OKだね」って、分かっちゃうわけ。「もういいでしょ解散で」っていうのを、ブラック社長は結構「イヤ、まだいける、もう一声」みたいな感じで。

貴央：その雰囲気わかります。

仁美：あと「もう撮ってるんですか!?!」「今、回してま〜す」みたいな。ちょっと嫌なお兄さんみたいなイメージだったの。

好夏が始まったら始まったで永遠に回されるメイキング。で、ちょっと演者の中でも物議をかもしたの（笑）「私なんてトイレ以外は全部撮られてるよ」「なんなのもお〜！」みたいな。「でも仕事だからやらなきゃいけないね」みたいな感じでみんながんばってたんだけど…

貴央：なんということだ（笑）

仁美：なんか最後の最後に爆発したんだろうね。みんなで思い出の（寄せ書き）ボード作りましようみたいな時に、そのボードに、私も子供だから



めっちゃ文句書きまくったの「メイキング撮りすぎ!」「もうなんなの!信じらんない!」みたいな、爆発してその最後の思い出のメッセージボードにめっちゃくちゃ悪口書いたわけ。

一同：（大笑）

仁美：で、まわりのスタッフの人は「仕事じゃないよ、あれは趣味だから」って。

貴央：（笑）

仁美：「えー趣味で撮ってんの!?! なおさら！なおさら許せない!」ってなったんだけど、やっぱり作品ができてメイキングを見るとね、面白くてちゃんとなってるし、ファンの人も喜んでくれるメイキングだから。その後ね、やっとこ飲み込めた。

二人：（笑）

ここで一木プロデューサー兼メイキングビデオカメラマンから、当時「異次元の面白いの作ってやる」と本気でメイキングを撮ったというアツい思いが語られる。実際、購入者から「こんな面白いメイキング初めてだ」と反響があり、それが販売代理店にも届き、好夏2では特典映像だったメイキングが、好夏3では本編とは別々に単体DVDで販売することになったという。

一木P：仁美ちゃんが頑張ったから。

貴央：3にすべて反映されて。



貴央：好夏の現場って誰一人怒る人がいなかったんですよ。

仁美：確かに（笑）

貴央：映画の撮影現場ってだいたい助監さんがずっとキレてるみたいな現場が多いんですけど…

仁美：確かに〜（大笑）

貴央：誰も怒らないし、すごく楽しく撮影ができたイメージ。でもそれは監督ありきだったんだなって今思います。監督がやっぱり理論的だし、怒りはしないけど笑いながらみんなを悟してくれるから、撮影もすごく円滑だったし映像も綺麗だし、そういうイメージですね。とにかく怒られた記憶がないです、近藤監督に。

仁美：そうだね。監督さんってさ、熱が入っちゃうとやっぱり情熱とともに怒りが「こうしたい！」みたいな出ちゃう人ってたくさんいるじゃない？でもなんか近藤監督ってすごい淡々としてて温厚で怒らなくてニコニコして…

貴央：いいですね、理論的だから。

仁美：私はすぐ怒られちゃうタイプなの、色々な人にね（笑）怒られちゃうと中学生だったから意外とシュンとしちゃうの一瞬だけ。一瞬だけね（笑）

貴央：（笑）

一木P：ありがとうございます！

仁美：良かったと思います！

貴央：もうショートコント、何百回やったか（笑）

仁美：ショートコント本当好きよね〜。「ショートコントやって！ショートコント！」今思い出すとトラウマ（笑）

貴央：同じ気持ちをちょっと思ってます（笑）

仁美：でも大人になって、もう一度（一木さんに）会うと、ものすごいまとも人だったんだなあ〜。

一同：（笑）

貴央：ちゃんと観てくださる方を考えて物作りしてくれた。

仁美：やっと20年後に分かった感じがな。





仁美：すごい自由に演技をさせてもらったな、っていう。（監督に向かって）あの撮影でイライラしたことなかったんですか？

監督：楽しかったですよ。もちろん流れがうまくいかないと時間的なストレスはものすごいあったけど。

仁美：でもそういうの見せなかったじゃないですか。時間がなくなとか押してるって、そういう時の怒りを表にださない秘訣を逆に聞きたいんだけど。

貴央：逆に言ったら喋んなくなるイメージで。喋んなくなりますよね？

監督：ああー。考えちゃってるんで。「どうしてもここを乗り越えられるかな」と。

貴央：でパーって書いて「じゃあこんな感じで」みたいな感じで見せてきて。

監督：時間がない時に怒っても、あの時のみんなみたいな女の子たちは萎縮しちゃうだけで。1カットに1日かけられたら怒られてる中でも良いものができるかもしれないけど、でも時間がないわけじゃない。それこそファーストテイクが一番良かったりするんですよ、そういう時。

貴央：それにナイターの撮影が多かったんですよね。中学生なので何時までに撮り切らなきゃいけないっていう時間の制約は結構ありましたもんね。

仁美：うんうんうん。

貴央：ナイターの撮影もすごい楽しかったイメージがあります。夜の校庭とか、星空の下で撮影したりとか。なんかそういうの、すごい楽しかった。アドレナリン出るのみんな。

仁美：そうだね私、花火のシーン、すごいテンション上がりまくっちゃってビュンビュン振り回して動き回ってたから。それ以上回すとカメラに映らないからやめてっていうのも全然無視で（笑）

貴央：想像できる（笑）

仁美：好き勝手動き回ってたから。確かにすごく楽しかった思い出。だから、近藤監督ってすごいよね、私だったらもうたぶんクビしめちゃってるかもしれない、あんな子供がいたら。

二人：（大笑）

貴央：温厚な方々が温厚な空気を作って撮影してくれたから、すごい良かったです。

監督：（プロデューサー自身が撮影の）メイキングありきの作品なので、メイキングに楽しそうに映らないような現場にはしたくなかったかな（笑）

貴央：なるほどなるほど。

仁美：でも私一回だけ、なんか多分時間がないのにメイキング撮影に女の子を借り出されて「はあ〜」って顔してる監督は一度だけ見たけど。





貴央：メイキング待ちってやつね、度々ある。
聞いたことない他の現場で…

一同：（大笑）

■ 最後に、互いの印象とこれから

貴央：仁美さんはもう初対面の時も今も変わってなくて、表に出てる時も裏の時ももう本当このまま。たぶん声100m先まで聞こえてんじゃないかぐらいの声で明るく話してくれるし、ほんと裏表がなくて明るい人っていうイメージですね。

仁美：ありがとうございます。

貴央：あと何より可愛い。フォトブック作ってる時に仁美さんが全然セレクトの写真をくれないから、私が勝手に仁美さんの可愛い写真をセレクトして。顔が好きです、とにかく。

仁美：私が思うのは、貴央ちゃんって華やかな可愛さの中の真にクールさっていうか、最初に会った時の印象と、今一緒にいる印象が全く違って。あの時はキラキラで華やかというハッピーオーラみたいな感じだったんだけど、今こうやって色々接してみるとすごく芯の強さがある子だなんて思ってます。

芯の強さというか凛としている、華やかさの中に凛としたところがあるなって。

貴央：すごい！何も出ませんけど（笑）

仁美：一番すごいなって私は思うのは、可愛いのはもちろんなんだけどクリエイティブなセンスがすごくあるから、これからそういうところでも絶対活躍できる子なんじゃないのかなあと思います。

貴央：ありがとうございます。前回のイベントは完全に制作面はやってくださって、私がいろんなオプションというか周りのことを一緒に用意したり、すごく楽しかったですね。また一緒にお仕事させていただきたいです。

仁美：じゃあ次は…好夏4かな（笑）お会いしましょう！

貴央：お会いしましょう（笑）

二人：ありがとうございました～！

★ ふたりの対談について

近藤勇一（好夏シリーズ監督）

それは2000年代前半のこと、アイドルDVD、写真集の全盛期。イメージ映像が全盛のアイドルDVD枠において異色の青春ファンタジードラマ「好夏2 ミントプロトコル」（'03年）、「好夏3 星空のユグドラシル」（'05年）が発売された。2の主役は寺門仁美さん、3の主役は彩月貴央さん、ともに当時ジュニアアイドルのエース。アトリーの社運をかけた（？）一木プロデューサー（社長）入魂のキャスティングである。それは見事大当たりし、両作とも秋葉原でのDVD発売イベントでは数百人のファンの方々が集まり大盛況だったのがとても懐かしい。

しかしその後間もなく、アイドルDVDは急激に下火になってしまう。アイドル雑誌も次々と廃刊。時代は歌って踊るグループアイドルの時代に。好夏シリーズもDVDとしてはこの2,3のみで終了となり、僕の仕事もアイドル映像の撮影・編集からCG・VFXへと変化していった。

さて、時を経て去年、寺門さんと彩月さんが一緒にお茶しているよと一木社長から話を聞いたときはかなり驚いた。あれ？ふたりの接点って？ 同じ好夏シリーズだけどふたつは別の年に作られた個別の物語。アヴェンジャーズのようにふたつが交差する続編を当時夢見たこともあったが、それはあまりに贅沢すぎるし、大人の事情を考えても難しい。そんな夢想をしたのも20年近く前の事。今になって一体何が起きているのか!?

そして発表されたのがふたりの合同イベント。驚き以上に感慨深さを感じた。シリーズとしては実現できなかった事が形を変えて現実のふたりによって実現されようとしている。奇しくも時をおなじくして『量子の夏』での脚光により、僕の監督作の連続上映をSF特撮映画セレクトで展開していただいているタイミング。確信した。今しかない、好夏2と好夏3と一緒にスクリーンで上映するのは。

さて、それぞれ別々だったふたつの夏、いったいふたりがどうやって出会い、意気投合するに至ったのか、その経緯が気になるところ。先日開催されたふたりの合同イベントに参加された方はトークの中でも触れられていたのですでご承知だとは思うものの、こんな奇跡のタネ明かし、あの場の出来事としてとどめるにはあまりにもったいない。むしろアトリーの社史に深く刻まれ、後世に示す出来事（ですよー一木さん？）今回の特集上映内で実現した好夏2 & 3の同時上映、それを記念してここに新たに対談テキストとして、ふたつの夏の邂逅をみなさんと共有したいと思った次第。

作品として実現できなかったファンタジーを現実で実現してくれた寺門仁美さんと彩月貴央さんにあらためて心より感謝いたします。加えて、この同時上映の機会を設けていただいたSF特撮映画セレクトのハッピーモンスターズさんに心より感謝申し上げます。

ミントもジンコもやっぱりすごいわ、そしてそれ以上に仁美ちゃんと貴央ちゃんはホントすごいわ。



ミント 寺門仁美
ルルカ 高島華澄
式神 坂田知美
ノノ 高橋 梓
タマキ 宮内彩花
ルルカのパパ 水木一郎

プロデューサー 一木伸夫(アトリー)

監督・脚本・編集 近藤勇一

制作 水野博章(GOIS)
撮影・CG 平松大輔
照明 村田暁彦
スチール撮影 野下義光
スタイリスト 江川美恵
ヘア&メイク 石野敦子(UNRU)
録音 成田一明
音響効果 佐藤一俊
特機 榊井正美(METAL WORK)
造型 前田敦志
助監督 高橋雄弥
制作助手 太田量 佐藤奈美 内田伊佐郎
アシスタントプロデューサー 田中千尋(アトリー)
CG応援 北岡正
広報 鈴木陽子

アーティストマネージメント
小野寺道成(宝映テレビプロダクション)
服部徹(パーツ)
立原有香理(パーツ)
黒坂智子(イエローバード)

車両 坂倉 靖(Tyrrell!)

株式会社フォーサイド・ドット・コム

企画・制作 株式会社アトリー

挿入曲
supported by 有限会社ミュージー
「Nazo Nazo」 gwm
「Fianna Finn」 大嶋啓之
「南瓜売りの少女」 Å
「鍵」 f.+
「another world」 kaizer
「からくり人形の踊る帰り道」 Å
「巨樹」 Atomic Pulse
「この星でー」 yan
「ETERNITYSCAPE」 HAK

システム協力 有限会社 Red Wing

協力
株式会社宝映テレビプロダクション
有限会社パーツ
株式会社イエローバード
学研BOMB編集部
信州上田フィルムコミッション
千葉県フィルムコミッション
METAL WORK
Tyrrell!
マックレイ
有限会社ドリームジャパン
整音スタジオ
GOIS株式会社
有限会社ライブバージョン
有限会社スタジオキューブ
東京映像芸術学院
GIRAFFiLM
野路敬生

(2003年 / 39分 / DVD / 株式会社アトリー)

ある日、宇宙旅行の参加者が募集される。
その名もユグドラシルプロジェクト。
それは心の力で星の世界へ飛ぶというもの。
だけど選ばれたのは、願いを見失った天文部員の少女。

夏の日、現実とファンタジーの境界線がざわめきます。
もう一度、願いを取り戻してみようよ。
互いの引力を見つけ、少女達の夏は輝く星座を紡ぎ出す。

モノノケたちの陰謀を乗り越え、
宇宙に伸びる不思議な樹に乗り
願いを星まで届けに行こう！
抱け！願う力！

少女3 星空の ユグドラシル

星野天音(シンコ) 彩月貴央
山本れいゆ(部長) 小島由梨
七宮さつき(ナナ) 柳生みゆ

ポンちゃん 林清羅
ムー 高橋梓
カオリ 百瀬絵理奈
グミ 篠原愛実
天呼 高木李湖
巫女 山岡みどり
物見童子 愛甲りな
ママ 井上碧

プロデューサー 一木伸夫(ATREE)

監督・脚本・編集 近藤勇一

撮影 平松大輔(RedWing) 長坂正文

照明 加藤義明

スタイリスト 奈雲恵里 樹田由美 熊谷麻理子

ヘア&メイク 石野敦子(UNRU)

坂田勝洋(OHANA)

録音 成田一明

音響効果 佐藤一俊

スチール撮影 野下義光

特機 榊井正美(METAL WORK)

アシスタントプロデューサー 田中千尋(ATREE)

助監督 高橋雄弥

演出助手 高波おち

制作主任 本田裕子

制作進行 森脇満里子

制作応援 水野博章 佐藤陽一 松井千佳

伊豆ロケコーディネーター 大木 賢(B・O・N)

車輜 佐藤 学(オートン)

広報 鈴木陽子(ATREE)

CG 平松大輔(Red Wing) 近藤勇一

北岡 正

上杉 尚

アーティストマネージメント

真田喜延(オスカープロモーション)

大森由紀子(オスカープロモーション)

保坂昇(スリー・アローズ・エンターテインメント)

杉田明美(ファイブ☆エイト)

佐々木健二(ファイブ☆エイト)

小野寺道成(宝映テレビプロダクション)

木村尚美(レヴィプロダクションズ)

日高勝巳(東宝芸能)

CG協力 有限会社 Red Wing

企画・制作 Japan Junior Idol Project
株式会社アトリー

オリジナル楽曲制作 高橋克行(ATREE/Landscape)
ヴァイオリン演奏 竹中のりこ

挿入曲

supported by 有限会社ミュージー

「狐狩り」by HAK

「大地の鼓動」by 九十九真夜

「神秘の樹海に挑む」by 九十九真夜

「水底の呼び声」by 九十九真夜

「大空の絨糸」by GC3

「Warabeno」by PHAT_LAB

「夕暮れの歌」by asha

「大地変動」by ZERO

「雲の階段」by 公

「Fianna Finn」by 大嶋 啓之

「不知月 -arcane moon-」by 瑞希 明

「木霊」by S T M

声の出演 雪絵れな

協力

株式会社オスカープロモーション

有限会社ファイブ☆エイト

株式会社スリー・アローズ・エンターテインメント

株式会社宝映テレビプロダクション

株式会社レヴィプロダクションズ

東宝芸能株式会社

学研BOMB編集部

信州上田フィルムコミッション

アクアプラザ上田

生島足島神社

上田市立北小学校

柳沢病院

国立天文台 野辺山観測所

ハケ岳牧場

上田山荘

下田市教育委員会生涯学習課

バイザシー

METAL WORK

三和映材

アーキ・システム

有限会社スターゲイズ

スタジオドールアップ

株式会社ハイブライト

整音スタジオ

有限会社スタジオキューブ

有限会社オートン

株式会社メディアシティ

有限会社ライブバージョン

GIRAFFILM

江川美恵

前田敦志

木村和代

(2005年 / 55分 / DVD / 株式会社アトリー)